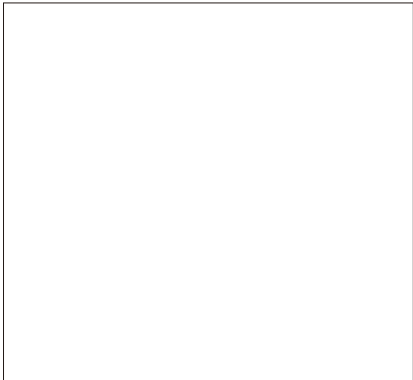


# 会員の「非行」への対策について議論

## 会員集会開催

昨年12月1日、会員集会が開催された。当会会館5階会議室のリアル会場、各支部会館への中継、及びZOOMウェビナー参加のハイブリッド形式での開催となった。



開会挨拶する畑中会長

冒頭、畑中隆爾会長の挨拶がなされた。本年度2回目の会員集会であるとして、前回集会の振り返りがなされるとともに、今回は、会員の非行対策の議論や、公益ポイン

### 会員の非行に対する 当会としての 対策について

ロマンス詐欺対応に関する非行提携事件及び預り金流用事件で、立て続けに当会会員の非行が明らかになったこともあり、当会として会員の非行に対し、どのように対策すべきかが議論された。

まず市民窓口、紛議調停、綱紀懲戒の流れや適正化対策室の活動、そして日弁連規程の改定につ

れた。第三者調査の可否可否について、各事件の原因と対策について、預り金管理強化についてなど、

### 弁護士会照会手数料及び 各種証明書発行手数料の 改定について

弁護士会照会手数料につき、現行5000円(税別)の送料別であるところ、7500円(税別)の送料込みに変更すること、印鑑証明書発行手数料は3000円(税別)から5000円(税別)に変更し、従前無料で発行していた証明書類も、5000円(税別)の費用を徴収する形となることが説明された。物価、人件費の上昇、人手不足が挙げられ、特に弁護士会照会は件数が大幅に増え負担が大きくなっているのが会員に理解を求めたいとした。

#### 報告事項①

公益ポイントに関する検討状況について

公益活動ポイント等検討ワーキングチームが、現行制度見直しのため、委員会アンケートを実施するとともに、全会員に平等の分担になるよう制度趣旨や制度の位置付けから検討していることが報告された。

多数の質問や意見が出され、予定の時間を大幅に超えて活発に議論が交わされた。

度内を目標に提言をまとめた」とした。

心であり、具体的には日程割振交代手続、会議室利用手続等の省力化、会員サイト拡充などがなされる予定とした。

現在の状況として、必要な要件や機能を確定するための要件定義につき50%程度の進捗であることが報告された。今後の予定としては、本年7月に設計を開始し、次々年度中の新システム稼働を目指しているとのことである。

新システムは、事務局業務のシステム化が中心

に対するハラスメントアンケートの集計結果の訂正について

従前、速報版として発表されたアンケート集計結果につき、誤字等の訂正が行われた速報修正版の分析総括が配布され、その内容についての報告がなされた。

アンケート結果の資料が配布され、その結果が報告されるとともに、類似制度を有する他会に対するアンケート結果についても報告された。また、検討結果について、本年

法律事務所事務職員に

（会員 西 雄一郎）

## 第30回 神奈川県弁護士会人権賞贈呈式

今年度の人権賞は、記念すべき第30回という大きな節目を迎えた。会場となった当会会館には、約50名もの来場者が詰め

かけ、熱気に包まれた贈呈式となった。

今回、人権賞を受賞したのは、「トングラム」と「横浜いのちの電話外国語相談」である。

トングラムは、教育無償化制度の対象外とされ、公的な支援が届きにくい朝鮮学校及び付属幼稚園の子どもたちを支える活動を展開している。食育の推進や保

負担の軽減を目的とした給食支援は、子どもたちの健やかな成長を支える「権利」を守る活動そのものである。

一方、横浜いのちの電話外国語相談は、30年以上の長きにわたり、在日ラテンアメリカ系住民への精神的支援を続けてきた。スペイン語やポルトガル語による電話相談を通じて、母国語で安心して語ることができる場を提供している。

母国語で相談できることは心の安らぎに直結し「心がふっと軽くなる」という受賞者の言葉は、言葉の壁に阻まれる人々

の孤独に寄り添う活動の重みを物語っていた。

西団体からは、今回の受賞が「活動の大きな励みとなり、今後の取り組みの後押しとなる」との喜びの声が寄せられた。

弁護士会が光を当てること、団体内部の活力が向上するだけでなく、メディアを通じて広く社会に活動が周知される意義は大きい。

埋もれがちな社会課題に光を当て、この賞の重みを再認識するとともに、今後これら受賞団体の歩みを注視していきたい。

（会員 工藤 昇）

（会員 工藤 猛）

（会員 工藤 昇）

（会員 工藤 昇）

神奈川県弁護士会新聞

発行所  
神奈川県弁護士会  
横浜市中区  
日本大通9番地  
☎045-211-7707  
URL <https://www.kanaben.or.jp/>

2026年度  
新理事者就任披露懇親会のご案内  
日時…2026年4月1日(火) 午後6時から  
場所…ホテルニューグランド 3階「ペリー来航の間」

神奈川県のアウトライ  
ンと天秤をモチーフに  
した神奈川県弁護士会  
のロゴマークです。

### 山ゆり

死ぬ前にもう一度だけ食べたいものがある。キリンだ。ビールではなく、動物園でよく見る、首の長い偶蹄類のことである▼子どものころドリトル先生シリーズにはまってアフリカ大陸に憧れた。当時は修習開始まで半年近く間があったので、東アフリカを放浪した▼30年以上前の話だが、ナイロビの郊外に、間引かれた野生動物の肉を食べさせる店があつて、そこでキリンの肉を食べた▼ワニやインパラなども美味しかったが(象は不味いので勧めない)、キリン肉には衝撃を受けた。塩胡椒を振って炭で焼いただけなのに、肉汁が多く、柔らかくて、臭いもない。首が長い分血圧が高くてジューシーなのだろう▼今では厳しく取り締まられていて、東アフリカではとても手が出せない。死ぬまで食べる機会はないのだからと諦めていたが、どうにもあの味が忘れられない。キリンを見て「もう日本人は少なからう▼だが、最近になって、ナミビアでは今でもキリン肉を食べられるらしいことを知った。アフリカの水を飲んだ者はアフリカに帰るといふ言葉がある。キリン肉も然り。今、私はまたアフリカに呼ばれている。

(工藤 昇)



# 汚染された海は、 まるで別世界だ。

レジ袋がクラゲのように漂う、別世界のような光景。しかし、汚染は「別世界」ではない。そう遠くない未来、スーパーの鮮魚売り場に、天然魚よりも高価な『プラスチックフリー』の養殖魚が並ぶかもしれない。

中嶋氏による具体的な数値を挙げて解説

公害・環境問題委員会は、生物海洋学者の中嶋亮太氏（国立研究開発法人海洋研究開発機構）を招き、「海洋プラスチックごみ問題」をテーマに講演会を開催した。講演では、海洋プラスチック汚染の現状や課題について、詳細な解説がなされた。

海中のプラスチックをウミガメ等が飲み込み、その生命が奪われていることは報道などにより広く知られている。しかし、この問題に対処していると思われていた「生分解性プラスチック」も、実際には温度条件等により通常の海洋環境では分解されない場合がある。

また、レジ袋は風に乘って海に到達しやすい特性があるので、政治的なパフォーマンスとも揶揄された「レジ袋有料化政策」が、実は海中のプラスチック量の抑制には大きく寄与する。

これらのように、目からうろこが落ちるような情報が紹介された。

プラスチック問題については、国際的な条約の締結も急務だ。企業に対して環境対策の助言をする弁護士としてだけでなく、日々の生活者としても「できること」や「すべきこと」について、多くを考えさせられる貴重な機会だった。

レジ袋1枚の消費を避けることは、私たちの未来を変える、意味あるエコアクションだ。

（会員 津田 絢子）

# “非行”の奥にある声を聴く ～理解と支援から始まる再出発～

標記のテーマでシンポジウムが開催された。

第1部では、「少年事件で弁護士がどんなことをしているか」というタイトルで、井原綾子会員及び佐藤直会員による基調講演が行われ、少年事件における弁護士の役割等についての説明や少年との面接の実演などが行われた。

第2部では、「調査官・少年院職員・弁護士それぞれの立場から、非行少年への関わりを考える」というタイトルで、日本女子大学名誉教授で元家庭裁判所調査官の岡本吉生氏、医療少年院の福祉専門官、井原会員、佐藤会員によるパネルディスカッションに

加する岡本氏

イスカッションが行われた。少年の更生・支援、障がいを抱えた少年、被虐待経験のある

少年等多岐にわたるテーマで家裁調査官、福祉専門官、弁護士それぞれの立場から意見交換がなされ、充実した議論が行われた。

世間では「少年法は甘い」「少年法は廃止すべきだ」などという声もある。今回のシンポジウムを通して、多くの方々に少年事件の実情や少年法の理念などを知っていただき、少しでも少年法や少年事件に対してこれまでと違った印象を持っていただけたら嬉しく思う次第である。

（会員 内海 光弥）

# 子どもたちの食を守るために

## 私たちができること

貧困問題対策本部では、Zoomウェビナーを利用して標記の講演会を実施した。

今回は、令和の米騒動と呼ばれた米不足が社会問題となっていた時期に企画したこともあり、田嶋氏を招いた。

内田氏は、日本の社会、あるいは、世界全体を蝕んでいると考えられるい

わゆる新自由主義政策（とその発現）に対する批判的な考察を軸として、日本の現在の農業の問題に限らず、様々な問題について講演を行った。

内田氏の解説は縦横に様々な知見を動員したもので、私たちの広報の方法自体を検討する必要もあるが、ひよっとすると、日々の営みの中で私たち自身が疲弊し、講演に向かう余裕すらなくしてしまっているのではないかと、う

気もした。

（会員 本田 正男）

のようになっており、まさに立板に水を流すのごとく参加者を魅了した。

ただ、内田氏のような著名人を招いたにもかかわらず、弁護士会館で行われた他のイベント等と同様に、参加者数が多くなかったことは残念であった。

# 核なき世界の実現にむけて

戦後80年の節目の年に、「日本被団協の田中熙巳さんをお迎えして高校生と考える いま、『核なき世界』をどう実現するか」と題する講演が開催された。

日本被団協代表委員であり、一昨年にノーベル平和賞受賞スピーチをした高校生平和大使からは、ご自身の生々しい被爆体験、原爆の非人道性、そして「兵器」とすら呼ぶに値しない「悪魔の道具」である核兵器の廃絶に向けた思いが語られた。

高校生平和大使からは、ジュネーブで開催された軍縮会議の傍聴等についての報告があった。高校生一人人署名活動に関わる高校生からは、「ビリヨクだけどもリヨクじゃない」をテーマに、署名活動やフィードバック等精力的に活動して

いることが報告された。

核問題を追及するジャーナリストの太田昌克氏からは、核を取り巻く現状について、世界情勢を踏まえた講演がなされた。核のタブーが破れようとしている危険性、そして被爆者への取材体験からの学びについても語られた。

被爆当事者、その声を世間に運ぶジャーナリスト、そして将来の平和を担う高校生という世代を超えたゲストの話を聴いて、参加者一人一人が、平和について再考するきっかけになったのではないだろうか。

（会員 大崎 菜耶）

# きみも消費者マスター！

## ボードゲームで未来を体験！！

消費者問題対策委員会では、消費者教育推進事業の一環として、小学生とその保護者を対象とした親子チーム対抗のボードゲーム大会を開催した。

教材には、社会の仕組みを楽しみながら能動的に学べるとして定評のあった「ライフリテラシーゲーム」を採用。ゲームの進行に合わせ、委員が考案した「消費者問題クイズ」に挑戦する独自ルールを導入した。

事前準備の段階で、当委員会の委員からも「遊びながら自然と知識が身につく」と高い評価を得ていた同ゲームだが、当日は予想以上の盛り上がりを見せた。休日のレクリエーションとして楽しみながら学ぶ手法は、幅広い層に消費者教育を届ける有効な手段となった。

波乱万丈な展開に一喜一憂し、真剣に勝負に挑んだ児童たちには、当会長からの「消費者マスター認定証」が授与された。参加者には、自然と消費者問題を学び、笑顔で帰ってもらえたのではないだろうか。休日を親子で楽しむ一助になっていれば本望である。

運営に携わった委員にとっても、消費者教育の意義を再確認する貴重な機会となった。本イベントを足掛かりに、今後も地域社会へ向けた消費者教育の普及に注力していきたい。

（会員 山本 紘太郎）

第13回

# 人権シンポ in かながわ

昨年11月29・30日、  
当会会館においてオンラインを併用して  
多数のプログラムが開催された

高校生からの質問に回答する講師

高校生から質問があった。高校生一人人署名活動に関わる高校生からは、「ビリヨクだけどもリヨクじゃない」をテーマに、署名活動やフィードバック等精力的に活動して

消費者マスター「ドキドキ、どんな大人になれるかな？」

波乱万丈な展開に一喜一憂し、真剣に勝負に挑んだ児童たちには、当会長からの「消費者マスター認定証」が授与された。参加者には、自然と消費者問題を学び、笑顔で帰ってもらえたのではないだろうか。休日を親子で楽しむ一助になっていれば本望である。

運営に携わった委員にとっても、消費者教育の意義を再確認する貴重な機会となった。本イベントを足掛かりに、今後も地域社会へ向けた消費者教育の普及に注力していきたい。

（会員 山本 紘太郎）



再審法改正  
イベント  
レポート

# 映画「黒い司法0%からの奇跡」 講演「再審法の問題点と法改正」

満員の参加者を前に熱弁を振るう村山浩昭弁護士

昨年11月30日、刑事法制委員会主催の再審法のイベントが人権シンポに合わせ開催された。当会会員だけでなく多数の市民の参加により、当会会館5階がほぼ満員になる程の盛況であった。

最初に、畑中隆爾当会会長から、再審法・えん罪問題への当会の取り組みについて説明があり、続いて、2019年米国の映画「黒い司法 0%からの奇跡」(原題: Just Mercy)が上映された。

黒人男性の被告人は、白人女性を殺害したとの事実で、死刑判決を受け、確定したが、無実を訴える被告人は、新人弁護士と共に再審請求を行い、幾多の妨害を乗り越え、一度は却下されるものの、遂には再審開始を勝ち取るのであった。

我が国とも共通する刑事司法制度の問題点に加え、根強く残る人種差別のあり方に一石を投じる秀作であった。特に、法廷での、重要証人に対する

る白熱した尋問や、弁護人による心揺さぶる弁論は必見である。

次に、村山浩昭弁護士(袴田事件再審開始・釈放決定を出した、元裁判官)による「再審法の問題点と法改正」と題する講演が行われた。

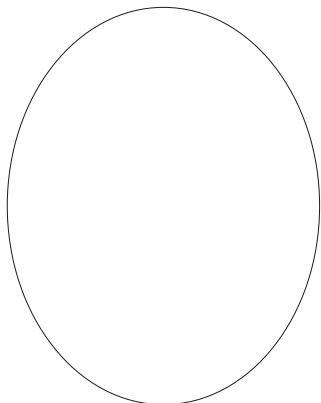
再審請求がほとんど通らない現状について説明があり、続いて、証拠開示のルール化や、検察官不服申立の禁止、手続規定の整備などの具体的な提言が行われ、参加した市民にも分かりやすい内容であった。

最後に、刑事法制委員会の伊藤武洋委員長から、今後も再審問題に取り組む旨の決意表明があり、盛況のうちに閉会した。

(会員 若林 豪史)

## 会長が ベ이스ターズ戦で始球式?!

会員 高岡 俊之 (48期)



会員の皆様は、今春、畑中会長がベ이스ターズ戦始球式において、速球を投げるかもしれないことはご存じだろうか。ご存じない会員もいらつしやると思う、「常議員会のいま」ということで、ここに紹介したい。

この議題は、正確には、「2026年3月横浜スタジアムにおいて開催される横浜DeNAベイスターズ主催のプロ野球オ

決された。

もちろん、当会としては前代未聞の試みであり、前例がないので、会議自体は、支出や財源、はたまた、実行可能性の点などで、喧々囂々の議論であったが、金谷達成議長(やはりかぶき者)の計らいで、小田原支部開催(20数年ぶりの支部開催)ということもあって、どこか朗らかな雰囲気にも包まれていた。

かような「かぶいた企画」を思いついた関係委員会には敬意を払いたい。久々の痛快な議題であったのでご紹介した。

なお、あくまで、企画が承認されたにどまり、実現するか否かは未定であるが、まあ、乞うご期待。

理事者室  
だより

## 承継と新しい発見

副会長 村上 慶一郎

第67回人権擁護大会が昨年12月12日に長崎市の出島メッセ長崎で開催され、私も11日のシンポジウムと12日の大会と懇親会に出席した。

当会会員も多く参加しており、大会宣言の決議に賛成の意見を述べた藤田香織会員の堂々とした発言が印象に残った。

平和公園、資料館などを見学することができた。長崎は何度か旅行に訪れたことがあるが、今回感じたのが、他所から来た人に対する優しさである。困っている様子を見ると、頼まれなくても地元の人が助けてくれるような場面が新鮮だった。

長崎の文化は和華蘭文化(わからんぶんか)と呼ばれる、日本・中国・オランダの文化が混じり合っ

今回長崎の原爆遺構や人々の優しさに触れ、この言葉には被爆を体験するのは自分たちで最後にしたいという、決意と優しさが込められていることを実感した。

人権擁護大会が継続して開催され、その時々の人権問題について取り組んでいることは、弁護士の存在意義を示すものだと思う。また大会に参加して現地を訪問し、その土地についての新しい一面を発見できるのも楽しいことである。

次回は10月8日と9日に仙台で開催される予定である。できるだけ続けて参加していきたい。

書いては消し、書いては消し。

原稿が進まず焦りばかりが募っていた。2024年に首都高速道路で6人が死傷した事故を巡り、昨秋まで約半年間の裁判が開かれた。裁判を題材にしたコラム記事で取り上げることにしたが方向性が定まらない。

警視庁担当記者として裁判前から取材し、運送会社の元社長は被告人のドライバーの体調不良に気づきながらも業務に従事させた疑いが持たれていた。事故の一因には会社の管理体制の不備もあったのか。ドライバーは体調不良でも仕事を休めなかったのだろう。そんな先入観を抱くようになっていた。

初公判で被告人は淡々と事故

## 人のために怒る仕事



新聞記者として就職が決まった年の初日の出

映像を眺めた。若干の違和感を抱きつつも裁判では感情を表しづらかったのかと受け入れた。だが被告人質問で亡くなった方の名前が答えられなかった。や

て書き直すか否か。

「人のために怒る仕事」。夜の静まり返った記者クラブで一人、パソコンと向き合っていた時、就職活動中に言われた元新聞記者の教授の言葉がよみがえった。会社側の管理に問題があったとしても、悲痛な事故の裏側に自覚の薄さはなかったのか。方向性を定めて記事を書き上げた。

記者になり2年目。取材力も筆力もあまりに拙く、実力不足を感じる日々だが初心を忘れずニュースに向き合い続けた。

## 新こちら記者クラブ

(日本経済新聞  
社会・生活報道ユニット  
社会報道グループ記者  
齋藤 美久)



How About  
**ADR?** 24

家庭内トラブルの新たな解決策

「家事ADR」

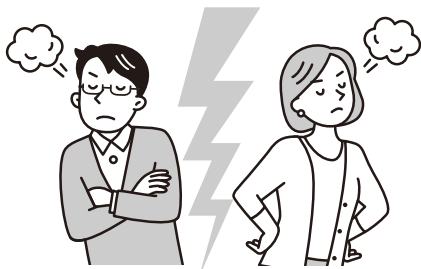
家庭内の紛争解決において、ADRが注目を集めている。これは、一般の方には敷居が高いと感じられがちな家庭裁判所の調停に代わる、より柔軟な話し合いの場である。家事ADRは、家事関係をめぐる様々な場面、具体的には離婚・養育費、面会交流、相続、祭祀継（お墓の問題等）といった問題を取り扱うものとされている。

例えば、離婚そのものは合意できているものの個別事項についての取り決めができていない場合や、離婚後に子どもの進路選択や進学費用の負担などについて話し合いが必要な場合、同姓カップルにおけるパートナーシップ契約の検討や、親の介護に関する家族間の協議、遺産の分け方やお墓の承継に関して話し合いが必要な場合などに、解決手段の一つとなり得る。

そこで、当会のADRにおいても、積極的に取り組んでいく予定である。家事ADRは、一定の法的な正当性を保ちつつ、対立が深刻になる前に当事者双方の気持ちと実情に合わせた早期合意を目指すための有力な手段である。

そして、家庭裁判所の調停に代わる手段となり得るとともに、当事者のニーズに寄り添って紛争を和解へと導く選択肢の一つとして円満解決の新しい可能性を提供するものである。

会員においては、家事



関係の相談や受任を受けた際に選択肢の一つにぜひ加えていただき、またあっせん人となって、その培った経験を活かすことを積極的に考えていただきたい。

(会員 中原 茂)

野球狂の詩 in 仙台

今晚は牛タンだ  
がんばるぞ！

日弁連野球マスターズ大会

オールドプレイヤーたちの



神戸戦

**サヨナラ勝ち!**  
何か知らないけどドタバタして

昨年11月23日、日弁連野球マスターズ大会が仙台市内の屋内球技場「シエルコムせんだい」で開催された。本大会は、弁護士野球の全国決勝大会に続いて行われる、オールドプレイヤーたちの祭典である。今回が第10回

祭典となった。全国から6チーム（及び14人の個人）の参加があり、各チーム2試合ずつ戦った。横浜チームは、瀬古宜春団長の下、元気印山崎健一や自称山本昌（本名非公開）を始め、18人（ただし選手は12人）が杜の都に乗り込んだ。当会会長である筆者も、副会長2名を引き連れて馳せ参じた。

外は気持ちの良い青空だったが、屋内は薄暗くて中高年には球が見づらく、また各選手とも往年の運動神経が薄れつつあり、珍プレーが多かったのは、ご愛敬。

2試合目は神戸戦。4-1と劣勢で、制限時間も残り少なく敗色濃厚だった6回裏、敵失・四球・安打で1点を返すも、ボテボテのゴロが続き万事

(会員 畑中 隆爾)

編集後記

今年の恵方は南南東とのことだ。

恵方巻も季節の行事として以前より定着し、給食で提供される学校もあるようです。

以前であれば、節分と言えば鬼のお面にホッチキス止めされた豆入りのビニールが定番でしたが、世の中が豊かになったのかかもしれません。

デスク 早川 和孝  
記者 菊池 帆花

工藤 昇  
甲良充一郎

菅沼 大

田淵 大輔

中島 慶子

西雄一郎



初級者が飛び込む将棋指導会

レベルに合わせて丁寧に指導

昨年10月18日、当会館にて、将棋指導会が実施された。私自身は、将棋は少しやったことがある、という程度であり、指導会に参加するのも初めてであったが、大変楽しい時間を過ごすことができた。

当日は、飯塚祐紀八段、宮嶋健太四段、頼本奈菜女流二段という指導陣のもと、将棋好きの会員らが集まり、和やかな雰囲気の中で指導対局が行われた。

指導対局というものが初めて体験だった私にとつて、棋士の先生方が、複数の盤面で、それぞれ2、3人を同時に相手されていたことは新鮮な光景だった。複数の盤面を見渡しながらも、対局後には重要な局面を再現してアドバイスをくださり、非常に勉強になったと同時に、プロ棋士の迫力を垣間見た気がした。

棋士の先生方は、私のレベルに合わせて丁寧に指導くださり、初級者の私でも、良い対局ができていたような感覚があった。良い手を指すことができたときの嬉しさは忘れがたいものがあった。周りを見渡せば、参加者の会員も、各々熱心に棋譜を記録したり、対局後には感想戦を行ったりと、真剣に盤面に向き合いながらも楽しんでいく様子が印象的だった。

(会員 早川 拓末)